

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：特殊鋼線製造工場におけるボ  
イラー高効率化による排出削減事業

排出削減事業者名：トクセン工業株式会社

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社

その他関連事業者名：

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	トクセン工業株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	トクセン工業株式会社
住所	兵庫県小野市住吉町南山 1081 番地
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

特殊鋼線製造工場におけるボイラー高効率化による排出削減事業

### 2.2 排出削減事業の目的

特殊鋼線製造で使用する蒸気ボイラーの高効率化更新。

温室効果ガス排出量の削減方法

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

特殊鋼線製造で使用する蒸気ボイラーの効率化更新によって削減する。

(排出削減事業実施後の設備概要)

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

無し。

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

2010年9月1日

#### 3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日～2018年8月31日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

#### 4.2 活動量

##### 4.2.1 活動量・原単位

活動量は採用しない。

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

—

#### 4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、燃料供給設備からボイラーまでとする。(2.6項参照)

## 5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
$F_{\text{fuel,PJ}}$	事業実施後燃料の使用量	t/年	2013年度：1,026.663 2014年度：1,021.637 2015年度：1,158.629 2016年度：1,311.181 2017年度：1,328.087 2018年度：530.863	ガス会社の納品書。バウンダリーに従い容量按分。	変更なし。
$HV_{\text{fuel,PJ}}$	LPG 単位発熱量	GJ/t	2013年度：50.1 2014年度：50.1 2015年度：50.1 2016年度：50.1 2017年度：50.1 2018年度：50.1	デフォルト値	変更なし。
$\varepsilon_{\text{PJ}}$	事業実施後のボイラーのエネルギー消費効率	%	92.5	カタログ値を基に算定 (高位発熱量基準)	変更なし。
$\varepsilon_{\text{BL}}$	事業実施前のボイラーのエネルギー消費効率	%	88.8	カタログ値を基に算定 (高位発熱量基準)	変更なし。
$CF_{\text{fuel,BL}}$	事業実施前の燃料 (LPG) の単位発熱量あたりの CO <sub>2</sub> 排出係数	t-CO <sub>2</sub> /GJ	2013年度～2018年度：0.0601	デフォルト値(LPG)	変更なし。
$CF_{\text{fuel,PJ}}$	事業実施後の燃料 (LPG) の単位発熱量あたりの CO <sub>2</sub> 排出係数	t-CO <sub>2</sub> /GJ	2013年度～2018年度：0.0601	デフォルト値(LPG)	変更なし。

## 6 排出削減量の計算

### 6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	1026.663	50.1	0.0601	3091.30
2014 年度	1021.637	50.1	0.0601	3076.20
2015 年度	1158.629	50.1	0.0601	3488.60
2016 年度	1311.181	50.1	0.0601	3948.00
2017 年度	1328.087	50.1	0.0601	3998.90
2018 年度	530.863	50.1	0.0601	1598.40
単位	t	GJ/t	tCO2/GJ	tCO <sub>2</sub>
	EM <sub>PJ</sub>			19201.40

### 6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	53,578.95	—	0.0601	3220.10
2014 年度	53,316.67	—	0.0601	3204.30
2015 年度	60,465.94	—	0.0601	3634.00
2016 年度	68,427.25	—	0.0601	4112.50
2017 年度	69,309.52	—	0.0601	4165.50
2018 年度	27,704.39	—	0.0601	1665.00
単位	GJ	—	tCO2/GJ	tCO <sub>2</sub>
	EM <sub>BL</sub>			20001.40

### 6.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0
2015 年度	0			0
2016 年度	0			0
2017 年度	0			0
2018 年度	0			0
	LE			0

#### 6.4 温室効果ガス排出削減量

項目		記号	
ベースライン排出量	(7.2)	<i>EM<sub>BL</sub></i>	<b>20,001.40</b>
事業実施後排出量	(7.1)	<i>EM<sub>PJ</sub></i>	<b>19,201.40</b>
リーケージ排出量	(7.3)	<i>LE</i>	0.00
<b>温室効果ガス排出削減量</b>		<b><i>ER</i></b>	<b>800.00</b>

## 7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
8,586	8,358	228

省エネルギー量 (原油換算) = 228.0 kl

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律 (省エネ法) 施行規則第 4 条に規定する換算係数を使用すること。

## 9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2013 年 4 月 1 日～2018 年 8 月 31 日)			
		エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kl) (実績)
	単位			